

## 第 20 章 経済成長 練習問題

1. 戦後日本の経済成長の過程を，データに即して説明しなさい。
2. 景気動向指数として，以前はディフュージョン指数が用いられていたが，現在はコンポジット指数が用いられている理由を，両者の長所短所に触れながら説明しなさい。
3. ハロッドの資本の保証成長率について，数式を用いて説明しなさい。
4. ハロッドの労働の自然成長率について，数式を用いて説明しなさい。
5. 黄金時代の均斉成長について，数式を用いて説明しなさい。
6. ハロッド=ドーマーの成長理論では，均斉成長経路にどのようなメカニズムで収束するのか発散するのか，図を用いて説明しなさい。
7. ネオケインジアン成長理論では，均斉成長経路にどのようなメカニズムで収束するのか発散するのか，数式を用いて説明しなさい。
8. 新古典派の成長理論では，均斉成長経路にどのようなメカニズムで収束するのか発散するのか，数式と図解を用いて説明しなさい。
9. ヒックス中立的技術進歩とハロッド中立的技術進歩を，数式と図解を用いて説明しなさい。また黄金時代の均斉成長と整合するのは，どちらの技術進歩か述べなさい。
10. 労働者 1 人当たりの消費を最大化する均斉成長をなんと呼ぶか，述べなさい。またそれを達成する新古典派定理を，数式と図解を用いて説明しなさい。
11. 最適成長経路に関するターンパイク定理を，数式と図解を用いて説明しなさい。